

**大学・専門学校・予備校1年生対象
侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)
予防ワクチン接種に関するアンケート調査
結果報告書**

平成26年4月24日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

日本人にとって新たな脅威として警戒が必要な感染症に侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)がある。IMDは、10代が罹患する可能性が高いとされる病気で、その初期症状は、吐き気や倦怠感など風邪の症状と似ており診断が難しい。罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性がある。罹患率は低いものの重篤性が高く、回復した場合にも約11～19%の割合で四肢麻痺、難聴、けいれん発作、または精神運動遅延などの生涯続く後遺症が残る。人から人への飛沫・接触感染で広がり、寮等での集団生活や人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなる疾患だ。世界全体では毎年30万人の患者が発生。特に、髄膜炎ベルトとよばれるアフリカ中央部において発生が多く、3万人の死亡例が出ている。ところが近年、わが国を含め、先進国でも散発的な感染が確認されており、特定地域における風土病としてではなく、どこの国においても対策が必要な疾患として、理解を深める必要がある。

わが国においては、1945年前後には4000例を超える患者がいたが、その後、減少し、1999年以降は、年間7～21件の発生に留まっていた。しかし、2011年5月、宮崎県的全寮制高等学校で集団感染が発生、4名が発症し、1名が死亡、保菌者は8名に上った。国内での集団発生を重く見た文部科学省は、2012年4月、学校保健安全法第18条に定められる「学校で予防すべき感染症」第二種に、IMDの代表的症状である「髄膜炎菌性髄膜炎」を追加。さらに2013年4月の感染症法の改定で、全数報告対象となる第5類感染症に規定される疾患が、従来の髄膜炎菌性髄膜炎から、髄膜炎菌を起炎とする髄膜炎・有症状の菌血症・敗血症などを含めた「侵襲性髄膜炎菌感染症」に拡大された。対象疾患が増えたこともあり、2013年4月から2014年3月までの報告件数は32件と、2012年度1年間の報告件数13件から倍増している。

10代の感染リスクが高いとされるIMDは、保菌者の中で、なぜ特定の人だけが発症するのかなど、IMDの発症メカニズムはまだ解明されていないが、予防にはワクチンが有効であることが分かっている。現在のところ、国内で承認されたワクチンはないが、海外では既に米国やカナダをはじめとする多くの国でIMD予防ワクチンが使用されており、国内でもワクチンの導入が期待されている。

そこで、QLifeでは、大学・専門学校の1年生のIMDの感染リスクが高い本人に調査を行い、髄膜炎ワクチンに関する意識調査を行った。なお、同時に本人／家族がリスクの高い海外渡航経験者ならびに小学5、6年生を持つ母親の調査も行っている。

主な結論

大学や専門学校への入学は、生徒にとってその交友や移動の範囲が大きく広がるライフイベントの1つであると同時に、感染症などの疾患リスクが高まるきっかけともいえる。今回、母子手帳や自治体からの連絡などで、罹患しやすい疾患が分かる乳幼児期とは異なり、10代の青少年が罹患しやすい疾患について、あまり情報が提供されていないように推察される。その1つであるIMDについても同様だ。海外旅行や海外留学などの情報収集や準備が必要なライフイベントはもちろん、寮生活や人の多い場所など日本国内でも感染リスクがあり、さらに重篤な症状になってしまうこの病気について、半数以上が「全く知らない」と回答。その予防意識はそれほど高くはなかった。しかし、「病気を知る」ことでワクチン接種の意向が大きく押し上げられたことから、自治体や学校による積極的な情報提供が求められる。

結論の概要

1) 半数弱の生徒が海外留学の経験「あり」もしくは「機会があればしてみたい」

7.1%が海外留学の経験あり。未経験者の約半数が海外留学予定ありもしくは機会があれば積極的にしてみたい。

2) IMDについて「よく知っている」4.4%「ワクチンで予防できることを知っている」10.8%

IMDについて、59.3%の生徒が「全く知らなかった」と回答。約9割の生徒がワクチンによって予防できる病気であることを「知らない」。

3) 9割以上の生徒がIMDを「非常に怖い」「やや怖い」病気と認識

10代が罹患する可能性が高い病気であることに強い共感。IMDに対するワクチン接種についても9割以上の生徒が「重要」「やや重要」と回答。

4) IMDワクチン「とても接種したい」「やや接種したい」80.3%

IMDの詳細な情報を知る前と比較して、「とても接種したい」26.8ポイント増加。「あまり接種したくない」「全く接種したくない」6.3ポイント減少。

5) ワクチン接種「費用」「安全性」を知りたい。情報源は「かかりつけの病院・クリニック」「自治体」から信頼性高い

ワクチン接種の検討のきっかけは「かかりつけの病院・クリニック」「家族」に勧められることが多数に。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 大学・専門学校・予備校の1年生
- (2) 有効回収数: 563人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/11/27 ~2013/12/8

▼有効回答者の属性

(1) 性別:

	n	%
男性	236	41.9%
女性	327	58.1%
総数	563	100.0%

(2) 居住地:

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
5.3%	1.4%	0.7%	2.0%	0.2%	0.5%	1.2%	1.1%	0.7%	1.4%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
9.4%	3.6%	13.9%	7.5%	1.1%	0.4%	1.2%	0.5%	0.9%	2.0%
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1.2%	1.6%	4.4%	1.1%	1.2%	3.4%	8.7%	4.4%	0.9%	0.2%
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.9%	0.0%	1.6%	2.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.4%	0.4%	4.3%
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
1.1%	0.5%	1.1%	1.2%	1.2%	0.4%	0.9%			

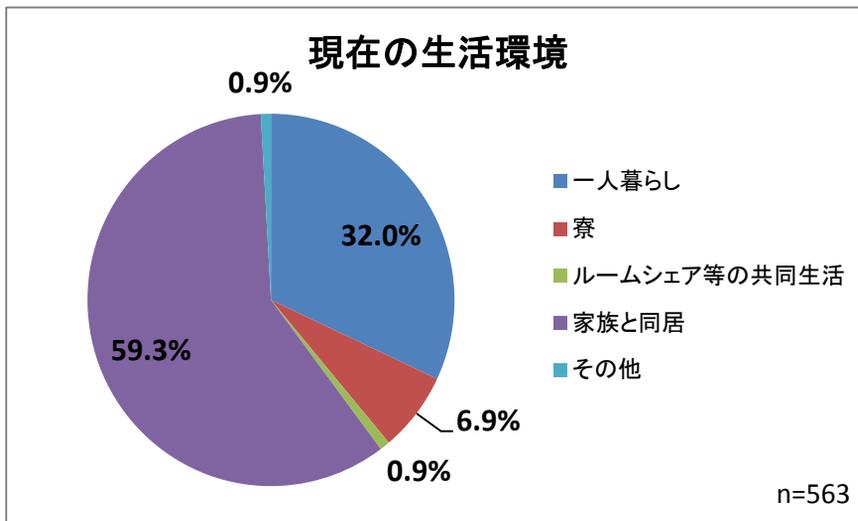
【Q1】現在の生活環境を教えてください。

「家族と同居」が最も多く59.3%。以下、「一人暮らし」(32.0%)、「寮」(6.9%)となった。

n=563

(SA)

	n	%
一人暮らし	180	32.0%
寮	39	6.9%
ルームシェア等の共同生活	5	0.9%
家族と同居	334	59.3%
その他	5	0.9%
総数	563	100.0%



【Q2】通っている学校の環境について、当てはまるもの全てを選んでください。(複数回答)

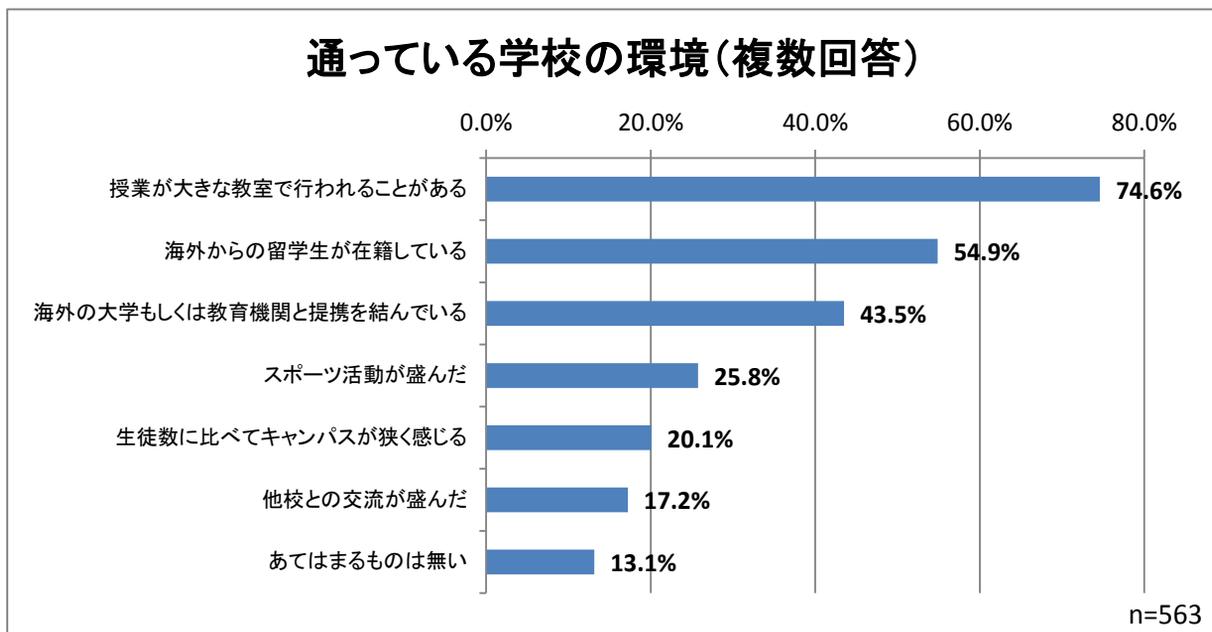
74.6%が「授業が大きな教室で行われる」と回答したほか、約半数が「海外からの留学生が在籍している」「海外の教育機関と提携を結んでいる」と回答。国内外を問わず多くの人と接触する機会があることが推察される。

n=563

(MA)

	n	%
授業が大きな教室で行われることがある	420	74.6%
海外からの留学生が在籍している	309	54.9%
海外の大学もしくは教育機関と提携を結んでいる	245	43.5%
スポーツ活動が盛んだ	145	25.8%
生徒数に比べてキャンパスが狭く感じる	113	20.1%
他校との交流が盛んだ	97	17.2%
あてはまるものは無い	74	13.1%
総数	563	249.2%

通っている学校の環境(複数回答)



【Q3】あなた自身について当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)

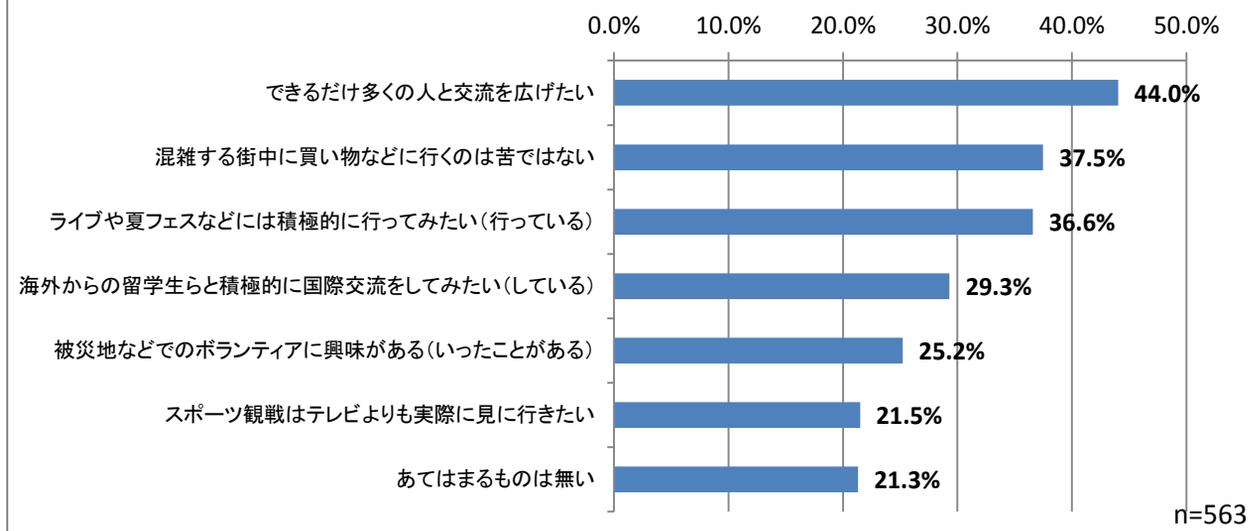
周囲の人々との交流意欲も積極的で、不特定多数の人との接触の可能性は高い。

n=563

(MA)

	n	%
できるだけ多くの人と交流を広げたい	248	44.0%
混雑する街中に買い物などに行くのは苦ではない	211	37.5%
ライブや夏フェスなどには積極的に行ってみたい(行っている)	206	36.6%
海外からの留学生らと積極的に国際交流をしてみたい(している)	165	29.3%
被災地などでのボランティアに興味がある(いったことがある)	142	25.2%
スポーツ観戦はテレビよりも実際に見に行きたい	121	21.5%
あてはまるものは無い	120	21.3%
総数	563	215.5%

自身について当てはまるもの(複数回答)

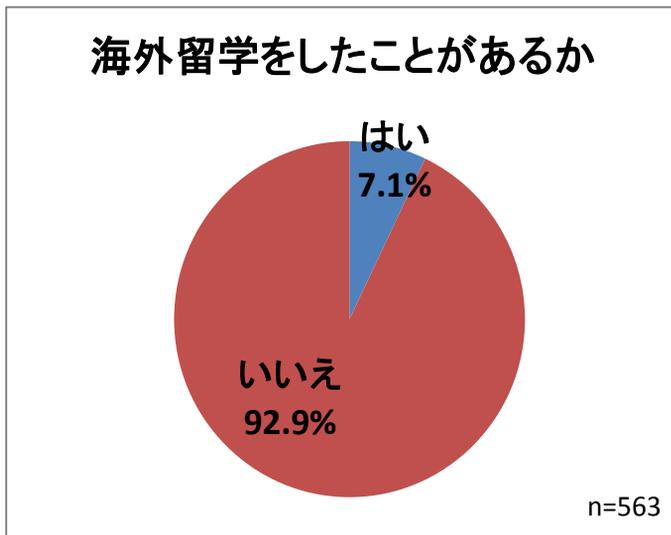


【Q4】海外留学をしたことがありますか。

7.1%が海外留学を経験している。

n=563 (SA)

	n	%
はい	40	7.1%
いいえ	523	92.9%
総数	563	100.0%



【Q5】海外留学をしてみたい気持ちや予定はありますか。(Q4で「いいえ」と答えた人のみ回答)

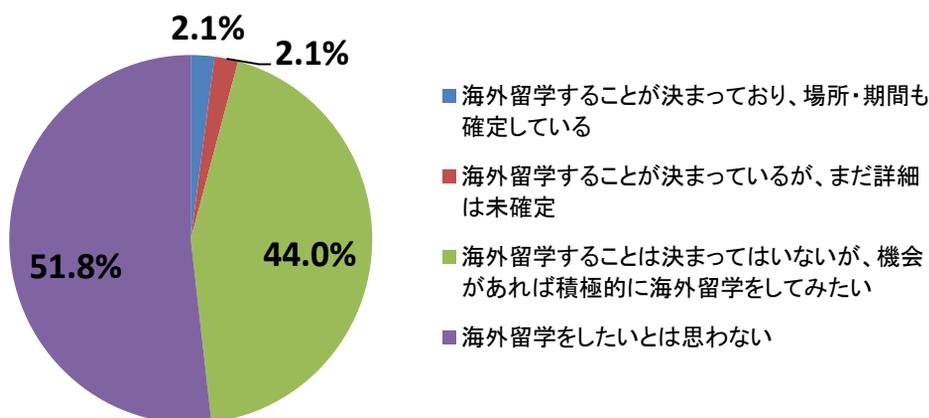
海外留学することが決まっているのは4.2%だが、「機会があれば積極的に海外留学をしてみたい」と考える生徒が半数近くいた。

n=523

(SA)

	n	%
海外留学することが決まっており、場所・期間も確定している	11	2.1%
海外留学することが決まっているが、まだ詳細は未確定	11	2.1%
海外留学することは決まっていないが、機会があれば積極的に海外留学をしてみたい	230	44.0%
海外留学をしたいとは思わない	271	51.8%
総数	523	100.0%

海外留学をしてみたい気持ちや予定はあるか



n=523

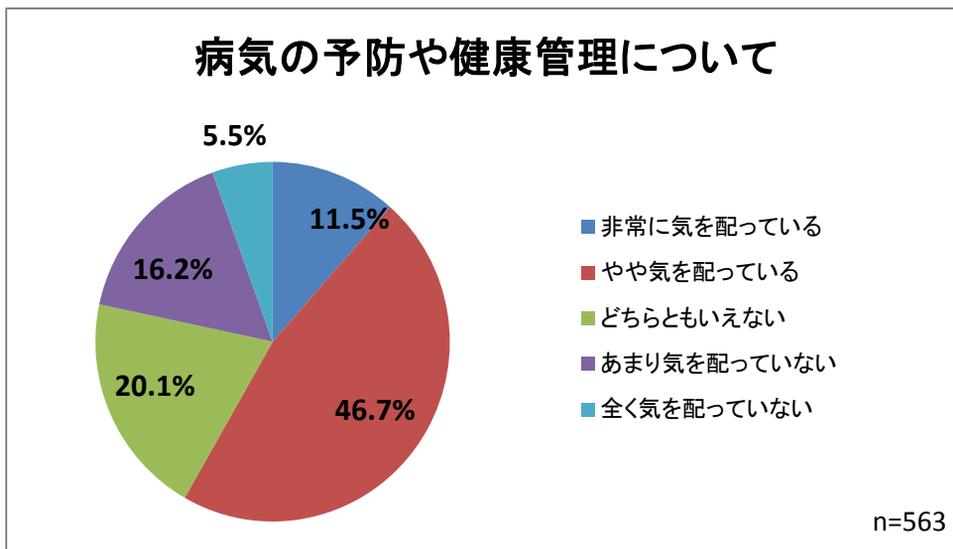
【Q6】病気の予防や健康管理について、最も近いものをお教えてください。

58.2%の生徒が「非常に」「やや」気を配っていると回答。一方「あまり」「全く」気を配っていない生徒は21.7%だった。

n=563

(SA)

	n	%
非常に気を配っている	65	11.5%
やや気を配っている	263	46.7%
どちらともいえない	113	20.1%
あまり気を配っていない	91	16.2%
全く気を配っていない	31	5.5%
総数	563	100.0%



【Q7】髄膜炎菌が引き起こす病気について、見聞きしたことはありますか。

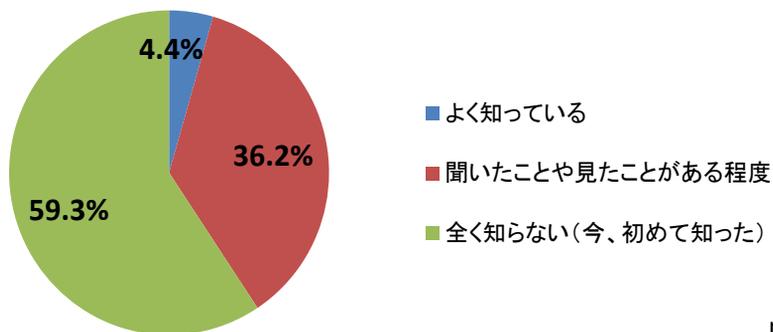
半数以上の生徒が髄膜炎菌が引き起こす病気について「全く知らない」と回答。一方「知っている」と回答した生徒も多くは「聞いたことや見たことがある程度」で、「よく知っている」としたのは全体の4.4%だった。

n=563

(SA)

	n	%
よく知っている	25	4.4%
聞いたことや見たことがある程度	204	36.2%
全く知らない(今、初めて知った)	334	59.3%
総数	563	100.0%

髄膜炎菌が引き起こす病気について見聞きしたことはあるか



【Q8】IMD(=侵襲性髄膜炎菌感染症:髄膜炎菌が引き起こす病気を総称してこう呼びます)は、ワクチンによって予防できる病気です。このことをご存じでしたか。

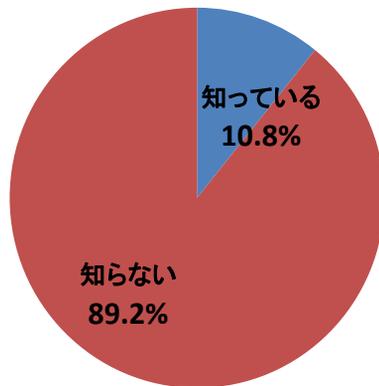
約9割の生徒が「知らない」と回答した。

n=563

(SA)

	n	%
知っている	61	10.8%
知らない	502	89.2%
総数	563	100.0%

IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)が
ワクチンによって予防できる病気であることを
知っていたか



n=563

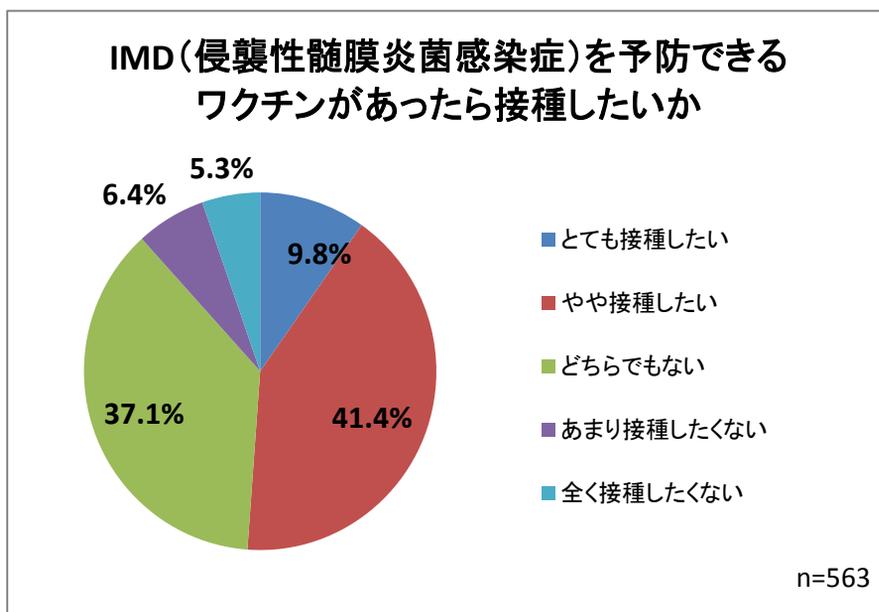
【Q9】IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)を予防できるワクチンがあったら接種したいですか。

約半数の生徒が「とても」「やや」接種したいと回答。一方、接種に否定的な生徒は1割強だった。

n=563

(SA)

	n	%
とても接種したい	55	9.8%
やや接種したい	233	41.4%
どちらでもない	209	37.1%
あまり接種したくない	36	6.4%
全く接種したくない	30	5.3%
総数	563	100.0%



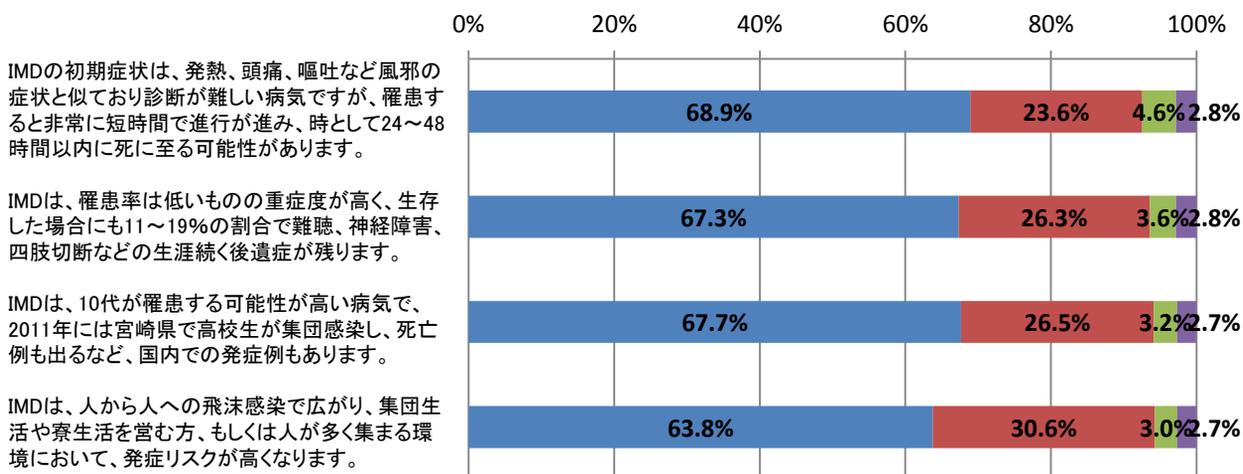
【Q10】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

全説明において、9割以上の生徒がIMDに対し「非常に」「やや」怖い病気だと思う、と回答。「怖い病気だと思う」と回答した比率が最も高かったのは、回答者と同年代が罹患する可能性が高いことを伝えた「10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります」だった。

	IMDは「非常に怖い」病気だと思う	IMDは「やや怖い」病気だと思う	IMDは「それほど怖くない」病気だと思う	IMDは「全く怖くない」病気だと思う	n	IMDは「非常に怖い」病気だと思う	IMDは「やや怖い」病気だと思う	IMDは「それほど怖くない」病気だと思う	IMDは「全く怖くない」病気だと思う	%
IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。	388	133	26	16	563	68.9%	23.6%	4.6%	2.8%	100.0%
IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。	379	148	20	16	563	67.3%	26.3%	3.6%	2.8%	100.0%
IMDは、10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります。	381	149	18	15	563	67.7%	26.5%	3.2%	2.7%	100.0%
IMDは、人から人への飛沫感染で広がり、集団生活や寮生活を営む方、もしくは人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなります。	359	172	17	15	563	63.8%	30.6%	3.0%	2.7%	100.0%

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの

- IMDは「非常に怖い」病気だと思う
- IMDは「やや怖い」病気だと思う
- IMDは「それほど怖くない」病気だと思う
- IMDは「全く怖くない」病気だと思う



【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

全説明において、9割以上の生徒がIMDに対するワクチン接種について「重要」「やや重要」と回答した。最も「重要」として回答した比率が高かったのが「IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。」という説明だった。

	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	n	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	%
IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。	327	201	22	13	563	58.1%	35.7%	3.9%	2.3%	100.0%
IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。	327	203	22	11	563	58.1%	36.1%	3.9%	2.0%	100.0%
IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。	353	175	22	13	563	62.7%	31.1%	3.9%	2.3%	100.0%
IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。	353	176	23	11	563	62.7%	31.3%	4.1%	2.0%	100.0%

【Q11】 IMDについて知って自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(つづき)

IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの (IMDに対する予防ワクチンの重要性)

- IMDに対するワクチン接種は重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない
- IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない



IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。

IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。

IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。

IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。

【Q12】前問までの内容を踏まえて、IMDを予防するワクチンが接種できるとして、あなたの気持ちに最も近いものを教えてください。

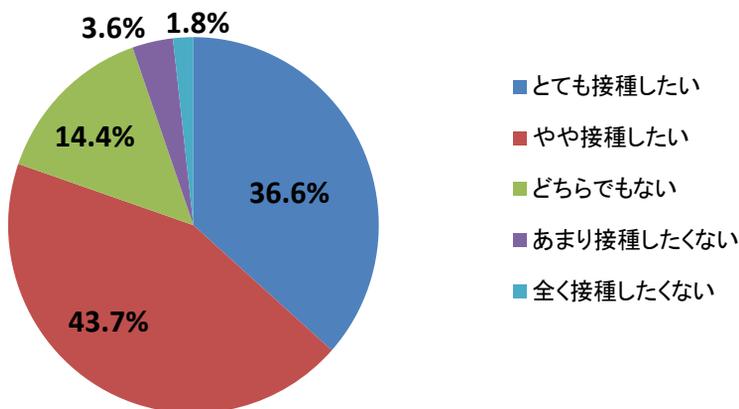
IMDについて説明した後のワクチン接種意向について、約8割の生徒が「とても」「やや」接種したい、と回答した。説明前に接種意向を尋ねたQ9と比較すると、「とても接種したい」は9.8%→36.6%と26.8ポイントの大幅な増加、「やや接種したい」は41.4%→43.7%、「あまり接種したくない」「全く接種したくない」の合計は11.7%→5.4%と6.3ポイント減少した。

n=563

(SA)

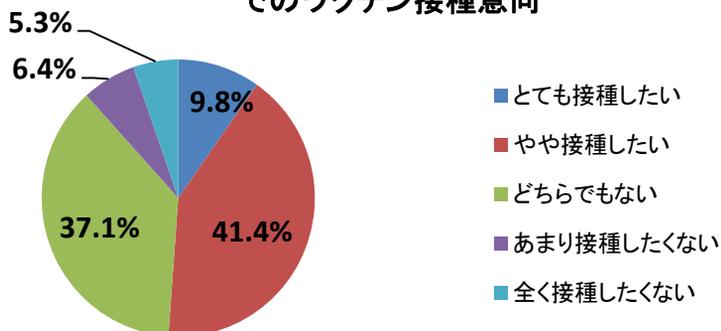
	n	%
とても接種したい	206	36.6%
やや接種したい	246	43.7%
どちらでもない	81	14.4%
あまり接種したくない	20	3.6%
全く接種したくない	10	1.8%
総数	563	100.0%

前問までの内容を踏まえて IMDを予防するワクチンを接種したいと思うか



n=563

(参考)Q9 IMDに関する情報を知らない状態 でのワクチン接種意向



n=563

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。

接種意向別に代表的なコメントを列記する。

【とても接種したい】

- ・一人暮らしで、万が一かかってしまったときのことを思うと病院通いなどが大変だと思うので予防接種を受けておきたいと思う
- ・大学などの多くの人が集まる場所に行くことがあるので万が一の時のために接種しておいた方がよいと思ったから。
- ・自身が10代であり例え死ななくても後遺症があるということなので、出来るだけ最初で感染の確立を低くしたい
- ・説明を聞いて、とても怖い病気で、日本でも死に至る人がいるほどの病気だから。感染して治療しても後遺症が残る可能性が高いし、海外では指定の予防接種にもなっているから。
- ・現在通っている大学は海外からの留学生も多く、また、登下校の際に利用している公共交通は大変込み合うため、どこでどんな病気をもらってくるか分からなくて、非常に怖いなど感じ、対策が取れるのなら取っておきたいと感じたから。
- ・若いうちは病気になりづらいのであまり考える機会がなく知らなかったが、自分や周りの人のためにも出来るならしたいと思った。
- ・症状で最悪の場合死に至るものは出来るだけワクチン接種をしておきたいからです。生存したとしても後遺症が結構痛いものでもあると認識出来ましたし。病気に罹りにくい状態を作れるのであれば、ぜひ進んでそれを実行すべきだと思ったからです。
- ・飛沫感染するということで、いつ、誰が感染してもおかしくないから。また、私は通学するときに電車を利用してあるので、人ごみの中で感染する可能性があると思うから。
- ・海外留学を計画している私にとって、他人ごとではない病気だとおもったから
- ・感染すれば死に至る、または生存しても後遺症が残る可能性がある病気であるのならば、予防しておくに越したことはないと思う。感染してから後悔するよりは、多少なりお金を出しても予防しておけば安心である。ただ、国内で承認されたワクチンがまだないというのが不安。何故なのかが知りたい。
- ・IMDにかかって自分が苦しむだけならいいが、他の人につまず可能性があるし、死に至る可能性もあるので、自分を守るためだけでなく人に迷惑をかけないためにも予防接種は必要だと思う。
- ・IMD予防接種をすることで、自らの感染も抑えられ、かつ、自らが感染しないことで、周りへの感染源になる事も回避できる。また、インフルエンザ予防接種ワクチンのように一般化すれば、国内での感染、集団感染が減る。また、近年グローバル化が進み、多国籍の方と接触する場合、予防接種していれば、感染もしなければ、感染源にもならない。以上の理由により、私はIMD予防接種をしたいと、強く願う。

【やや接種したい】

- ・海外へ渡航する際や流行したときには接種しておきたいと思うが、ワクチンはむやみに打てば良いという物でもないと思うので、判断が難しい。
- ・想像以上に怖い病気なようなので、受けたい気持ちは出てきたが、副作用も心配。
- ・自分は外国には行かないと思うが、行った人が国内へ持ち帰ってくる可能性が高いので、予防する方が良いと思う
- ・予防したいのはやまやまだが、お金がないから難しい。
- ・予防できるのであれば予防しておくことが大切であり、感染を考えると周囲への感染拡大を未然に防ぐためにも接種しておくことが必要だと考えるため
- ・日頃さまざまな人と接しているのでも、感染して学校に行けなくなるのが怖いので。
- ・怖い病気だから予防接種したいが、副作用が心配です。十分に研究を重ね、日本人に打っても大丈夫かを確認してから打ちたいです。
- ・いつ日本中に広まるか分からないうえ、今後外国人の方と関わることも増えると思うから。
- ・感染してしまってからでは、死亡してしまう可能性があったり、後遺症が残ることがあったりするということなので遅いと思うから。また、今察に入っていて、インフルエンザやノロウイルスが流行した時の感染の怖さを知っているから。だけど、国内では承認されているワクチンがないということなので、予防接種を受けたいけど現実的には難しいと思うから。
- ・自分が考えている以上に、罹患すると深刻な病気であり、治療したとしても後遺症が残る可能性があるため事前の予防が重要であると考えた。しかし、ワクチンの有効性や受ける回数、料金、副作用などについてあまり知らないため「やや接種したい」にした。

【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。(続き)

【どちらでもない】

- ・誰にでも、本当に効果があるかの確証がまだ持てないので
 - ・注射をする為に日をあけてかつ病院という、行ってから帰宅するまでの時間の掛かる場所に行くのは面倒だから。
 - ・国内での発症がそれほど多いとは思っていないので、海外などに行くことが決定した際は接種が必要かと思う
 - ・副作用が心配。子宮頸がんワクチンのように接種後に失神を起こす人が通常より非常に多かったり、他にも重大な副作用を起こす可能性が高い場合は受けたいとは思わない。そうでない場合は受けたいと思う。
 - ・身の回りでIMDIに罹患した人をみたことないため
 - ・確かに恐ろしい病気なのでワクチン接種もしたいがワクチンの副作用が心配。ワクチンは重要だが早期に導入してほしいとは思わない。またワクチン接種するためにかかるお金もかかりそう。お金がかかるようならやむなく接種を諦めると自分は思う。
- もう少し情報が入ってきて ワクチンそのものが安心だと思えれば考えたい。料金も気になる
- ・感染するのは怖いですが、感染率が低いのであまり必要性を感じないから。また、金額が高ければなくてもいいかなと思う。

【あまり接種したくない】

- ・それほど流行っているとは思えない。感染の機会には自分には低い気がする
- ・ワクチンを接種することによるメリットは良く分かったが、副作用の心配がないのか不安だから
- ・「ワクチンは国内では認められたものでない」というような記述があったので、やはり日本人に合うようなものでないと逆に麻痺などを引き起こすかもしれないのではないかと思ったからです。
- ・無縁に感じたから
- ・コストが高そう

【全く接種したくない】

- ・注射が嫌いだから
- ・めんどい
- ・お金がかかるから、副作用も心配

【Q14】ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報はありますか。(複数回答)

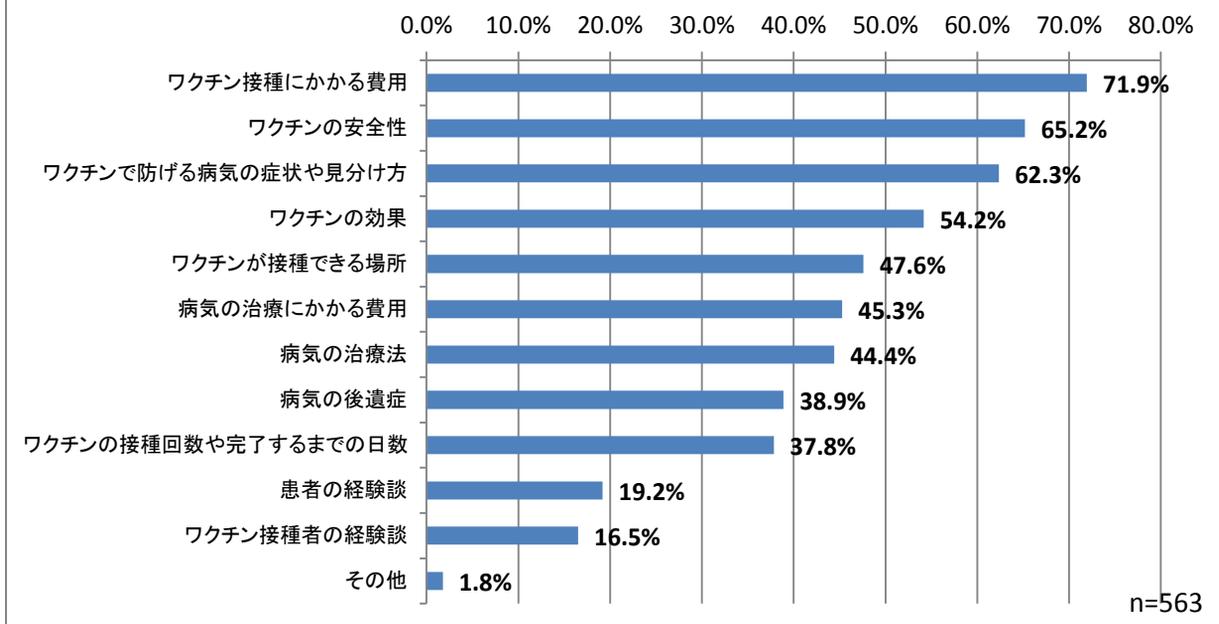
「接種にかかる費用」が最も多く71.9%となった。次いで、「安全性」「防げる病気の症状や見分け方」「効果」の順となった。

n=563

(MA)

	n	%
ワクチン接種にかかる費用	405	71.9%
ワクチンの安全性	367	65.2%
ワクチンで防げる病気の症状や見分け方	351	62.3%
ワクチンの効果	305	54.2%
ワクチンが接種できる場所	268	47.6%
病気の治療にかかる費用	255	45.3%
病気の治療法	250	44.4%
病気の後遺症	219	38.9%
ワクチンの接種回数や完了するまでの日数	213	37.8%
患者の経験談	108	19.2%
ワクチン接種者の経験談	93	16.5%
その他	10	1.8%
総数	563	505.2%

ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報 (複数回答)

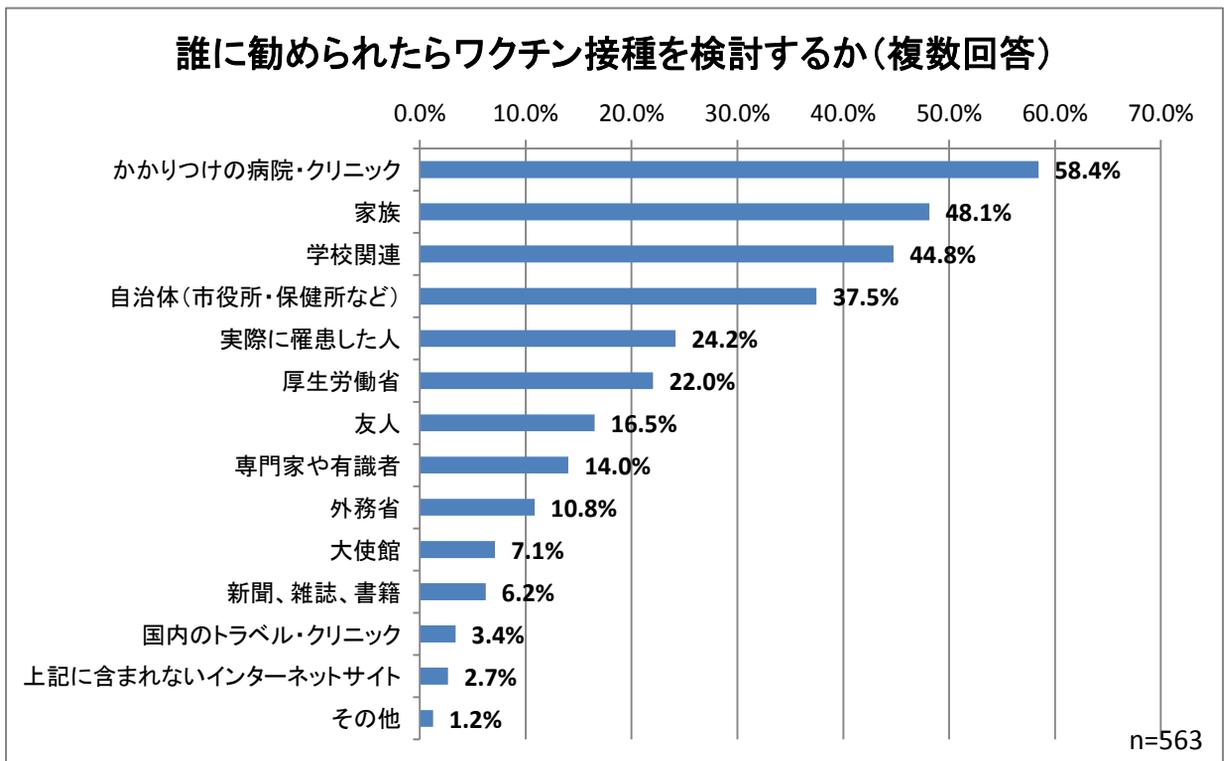


【Q14】誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思いますか。(複数回答)

「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く58.4%の生徒が回答。次いで、「家族」「学校関連」「自治体」の順となった。

n=563 (MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	329	58.4%
家族	271	48.1%
学校関連	252	44.8%
自治体(市役所・保健所など)	211	37.5%
実際に罹患した人	136	24.2%
厚生労働省	124	22.0%
友人	93	16.5%
専門家や有識者	79	14.0%
外務省	61	10.8%
大使館	40	7.1%
新聞、雑誌、書籍	35	6.2%
国内のトラベル・クリニック	19	3.4%
上記に含まれないインターネットサイト	15	2.7%
その他	7	1.2%
総数	563	297.0%



【Q15】ワクチン接種に関する情報は、どこから得るのが最も信頼が高いと思いますか。(複数回答)

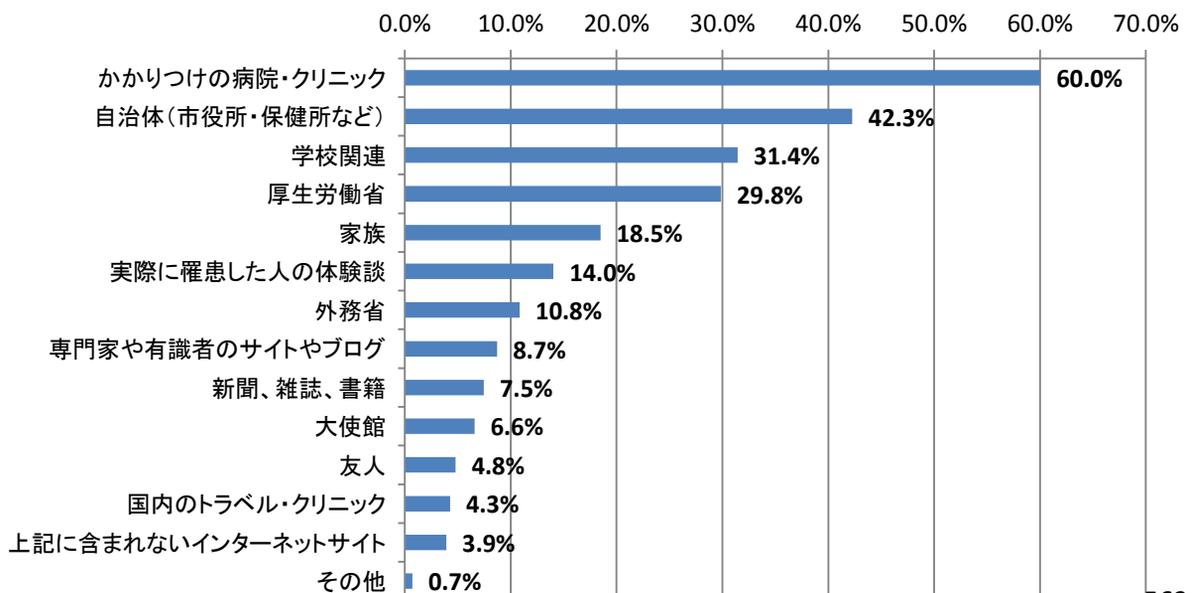
信頼性の高い情報源については、「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く60.0%となった。次いで「自治体」「学校関連」「厚生労働省」の順となった。

n=563

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	338	60.0%
自治体(市役所・保健所など)	238	42.3%
学校関連	177	31.4%
厚生労働省	168	29.8%
家族	104	18.5%
実際に罹患した人の体験談	79	14.0%
外務省	61	10.8%
専門家や有識者のサイトやブログ	49	8.7%
新聞、雑誌、書籍	42	7.5%
大使館	37	6.6%
友人	27	4.8%
国内のトラベル・クリニック	24	4.3%
上記に含まれないインターネットサイト	22	3.9%
その他	4	0.7%
総数	563	243.3%

ワクチン接種に関する情報はどこから得るのが信頼が高いと思うか(複数回答)



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)
所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F
代表者 : 代表取締役 山内善行
設立日 : 2006年(平成18年)11月17日
事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業
企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める
URL : <http://www.qlife.co.jp/>
